

いきいきとした町づくりをめざして

議会だより

からうら

No.46

2009. 1. 30発行

- | | | | |
|------------------------|-------|-------------------|------------|
| 一般会計補正予算
2,902万円を可決 | — 2 — | 8議員が一般質問 | — 5 ▶ 12 — |
| 委員会ハイライト | — 3 — | でけとんで〜〈追跡レポート〉 | — 13 — |
| 視察研修報告・防災シリーズ | — 4 — | はばたけ
ちびっ子アスリート | — 14 — |



阿波勝浦八景から 円城寺

2,902万円を可決

予算総額 28億923万円に

補正の主なもの

- 総務管理費 407万円
(地方公共団体を結ぶ情報通信ネットワークの入れ替え)
- 特定目的基金費 770万円
(土地開発基金積立金)
- 企画費 30万円
(提案公募型補助事業助成金)
- 子育て支援事業費 72万円
(放課後健全育成事業委託料)



ベンチづくりに汗を流す「かせやまクラブ」

公の施設の指定管理者

選任等を可決

十二月十日から十八日までの九日間開かれ、二十年度一般会計補正予算や簡易水道事業特別会計補正予算、勝浦町の公の施設の指定管理者の選任等について審議し全員一致で可決しました。また、一般質問では八人の議員が登壇し町の考えを問いました。

答

指定団体となることが出来る組織に地方自治法上の規定はない。法人格も必要なく問題はない。

問

農村環境改善センターの指定管理者として、実績のない「総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会」に委託されることになっているが、法的に問題はないのか。

答

この事業は一件五十万円を目安にしているが、内容によっては金額にこだわる必要はないと考えている。

問

提案公募型補助事業の補正が提出されているが、内容によれば金額の上限は設定しないのか。

議案に対する主な質疑



議長 川端 雅夫

日本列島に不況の嵐が吹き荒れている。こんな時こそチャンスととらえ、活力あるまちづくりのため議員一丸となり、知恵を出し合い頑張つて行きたいと思えます。本年もよろしく願います。

勝浦町議会

― 年頭にあたって ―

9月定例会で総務産建常任委員会に付託されていた、平成19年度各会計の決算について、委員長から「特に留意すべき事項」を付け認定すべきと報告があり、全員一致で認定しました。

【主な留意事項】

総務税務課

集中改革プランの推進にあたっては毎年検証を行い、住民サービスの低下にならないように努められたい。

住民課

ごみ処理問題については、分別ステーションの全町的な設置に努め、さらなるごみの減量化を図られたい。

産業建設課

農業振興に対する施策の充実強化を図るため、町独自の推進策を講じ勝浦農業の方向性を示されたい。

福祉課

町民の健康管理については、生活習慣病等を含め予防啓発の更なる取り組みを図られたい。

教育委員会

学校施設の耐震化を図り、児童・生徒の安全確保に努められたい。

勝浦病院

地域医療の役割を十分に果たすために、職場の環境を改善し、医師・看護師の確保に努め住民福祉の向上を図られたい。

委員会ハイライト

総務産建常任委員会

十二月三日に委員会を開き、十九年度補正予算などについて審議しました。

**土地開発公社所有地
町が買い上げ**

総務税務課長から 棚野地区にある土地開発公社の所有地の買い上げと、公の施設の指定管理者について説明がありました。

問 用地の買い上げ額は、また、毎年の支払い利息は。

答 土地開発基金として約四千四百万円あるが、不足額七百七十万円を補正する。利息は毎年約八十万円支払っている。

産業建設課長から 簡易水道事業特別会計補正予算について説明がありました。

問 簡易水道の使用料金滞納者について、組合長会議ではどのような意見が出たのか。

答 滞納者には町から督促状を出す。



土地開発公社の所有地（棚野）

文教厚生常任委員会

十二月三日に委員会を開き、各担当課から条例改正、補正予算などについて説明があり審議しました。

**出産育児一時金
三万円増額**

総務税務課長から 国民健康保険税条例の一部改正により、出産育児一時金の給付額が、現行の三十五万円から三十八万円に増額されると説明がありました。

問 町民が出産する場合、地理的条件などに問題は無いのか。

答 県内には分娩出来る施設が二十三施設あり問題は無い。

**指定管理
社会福祉協議会に**

福祉課長から 一般会計、介護保険特別会計の補正予算、公の施設の指定管理者について説明がありました。

問 子育て支援センターの指定管理は、内容を十分理解している団体が受けるべきではないか。

答 この制度の規定により公募したが、社会福祉協議会の一団体しか申請がなかった。



「はぐくみクラブ」でおもちゃつき

総務産建常任委員会【10月7日～9日】

視察1 木質バイオマス事業「真庭バイオエネルギー(株)」

岡山県真庭市は面積の八割を森林が占める林業の盛んな町である。ここでは製材や木材加工から出る端材をチップやペレットにしてボイラーの燃料にする「木質バイオマス」に取り組み、全国から脚光を浴びている。

この事業の目的は「過疎や高齢化が進む中、ないものねだりをするより、今あるものを生かし、真庭市をエネルギー循環型社会のモデルに」と言うものである。

勝浦町も真庭市と同様に森林面積が大部分を占めるので、林業振興は環境、洪水防止、経済効果などの面からも今後の重要課題であり、そのためにも間伐材の有効利用には広域で取り組む必要がある。



ペレット製造行程の説明を受ける

視察2 産直市のネットワーク化で農林水産大臣賞「奥出雲産直振興委員会」



各農家をまわる集荷トラック

島根県の奥出雲産直振興委員会はいろいろなアイデアで産直市を盛り上げ、地産地消の取り組みで平成18年度に農林水産大臣賞を受賞している。

その内容は、14の産直市をネットワークで結び品ぞろえの効率アップを図っていることや有機栽培の認証によるエコファームの採用、都市で開く産直市、トラック集荷による参加農家の拡大などである。

勝浦町も「道の駅」事業を検討しているが、良いアイディアで農・商・工連携のメリットが十分に生かされるよう取り組みたい。



消防団の指導を受け消火訓練

防災シリーズ



毎年二回の防災訓練を実施

『中角自主防災隊』

中角地区の自主防災隊は平成十五年九月に結成され、毎年二月と九月に消火栓の点検・放水訓練等を行っています。平成十九年二月には隊員二十四名で組織体制を整え、本部を中角集会所に置き、八力所の避難場所を設けて各家庭に組織表（連絡表）を配布しています。



吹き出し訓練を実施

平成十九年九月の全町一斉防災訓練では避難訓練・消火訓練および消火栓の点検に第六分団の指導を受けました。

平成二十年二月の消火訓練では、婦人会の吹き出し訓練を実施しました。

また、集会所や地区内八力所に消火栓マップを掲示しています。今後、避難路や危険場所の点検など安全な地域づくりに貢献していきたいと思います。

(中角区長)

バリアフリーで 住みやすい町に

集会所を整備
新年度に予算化（町長）

国清 一 治議員



問 「住みやすい町」として、健常者や弱者が共に社会のなかで同じ生活が出来るよう、バリアフリーは必要不可欠である。

この問題は、過去の定例会においても再三質問が出され、町の「新総合振興計画」のなかでも公共施設のバリアフリー化を立てながら、整備がほとんど進んで

いない。どうなっているのか。また、今後の計画は。

答 総務税務課長

公共施設のバリアフリー化は、高齢者や障害者が安心して積極的に社会参加するためにも重要な施策であり「人に優しいまちづくり」実現のため進めて行きたい。

答 町長

町の振興計画の趣旨に沿うように、新年度から年次計画を立てて取り組んで行きたい。



考える農業 新しい農業を

農業再編は
JA・県と（町長）

問

全世界に大不況が吹き荒れるなか、農業経営にとって肥料や農薬、原材料費の高騰など厳しい現状となっており、今こそ農業の基本から考え直し、新しい農業に再編すべき時である。町としての施策は、また、一月に開催される

答 産業建設課長

「農業活性化シンポジウム」の内容はどういうものか。この機会に町長から「あつと驚くような」思い切った提言をしてはどうか。

今後の農業振興策については町単補助事業を活用し、栽培記録等を徹底すること、「安全・安心」で売れるもの作りを指導して行きたい。

える契機として、「勝浦いきいきファーマーズ」主催により一月十五日に開催をする。

答 町長

考える農業は新しい農業は

JAと県・町が一体となつての再編を進めて行く必要がある。勝浦みかんの活性化に向けて、シンポジウムを契機としてさらに取り組んで行きたい。



熱気に満ちた農業活性化シンポジウム

子供の遊び場 遊具の設置を

星谷運動公園に増設
（町長）

問

「子供の遊び場がないので造ってほしい」これは若い子育て中のお母さんたちの切実な願いである。

三月の質問で「星谷運動公園・ちびっ子広場に遊び場確保のため遊具の再設置を」と求めてきたが、その後どうなったのか。

答 教育委員会事務局長

運動公園の有効利用から遊具の設置は必要である。

答 町長

新年度予算で、星谷運動公園に遊具を増設したい。



中田町長

不況対策

商工業者への支援策は

プレミア付商品券の増額は検討する（町長）

節 公一議員



問 経済不況の波は中小零細企業に大きく押し寄せて来ている。このような非常時には商工業者に対して町独自の支援策が必要ではないか。
融資の利子補給やプレミア付商品券の増額、商店街活性化事業などに取り組んではどうか。

答 町長 利子補給について趣旨は十分理解している。内容を検討し支援出来る体制を整えたい。

プレミア付商品券の地元購買力アップの効果は認識しており、業者の自助努力も期待して、新年度予算で増額を検討したい。

答 総務税務課長 商店街活性化については、光ファイバー網を利用して、商店や商品を紹介する事業に関係団体とよく協議し取り組んで行きたい。

美しい森林づくり事業 現況と 今後の展開は

問 美しい森林づくり事業は、今年度から一千万円の予算で簡易水道の水源確保を目的にスタートしたもので、森林の手入れは環境、防災、林業振興などその効果は多岐にわたる。今後重要課題として取り組むべきと思うが、現況と今後の展開は。

答 産業建設課長 現在、森林組合に事業を委託し、棚野地区で間伐を実施している。今後、五年間の継続事業の予定で他の地区でも実施したい。事業の適正、効果については検証できる体制を整える。

勝浦病院 機能評価の受審 結果と対応は

問 質の良い医療を効率的に提供して行く

目的で機能評価を受審したが、結果と対応は。

答 病院事務局長 診療、看護、事務部門の各分野で五百三十二項目にわたって審査を受け、医師一名の不足を指摘された。今後、医師確保に全力をあげるとともに医師の過重労働の軽減を図るなど、職場環境の改善を積極的に行いたい。



今年からスタートした美しい森林づくり事業（棚野）



前田病院事務局長

■その他の質問
○学校の耐震化について

安²(あんあん)認証と

専門技術員の導入を

新年度に導入を検討(町長)

山野忠男 議員



があったが、その後どうなったのか。

答 産業建設課長

「安²認証制度」は農産物のブランド化に不可欠なものであり、本町においても取得者を広げるなど指導して行きたい。

答 町長

農作物の品質や選別のバラツキ等を解消することが重要であるとの認識から、市場性、信頼性を高めるために専門技術員は必要である。

今後、さらに詳細を詰め、新年度に導入を検討する。

問 基幹産業であるみかんや農産物に付加価値をつけ、高値で販売するために県の安全・安心の「安²認証」を受ける必要がある。この取り組みについて町としての対応は。また、昨年十二月議会の質問で、「農業振興の専門技術員導入について、二十年度に予算化する」との答弁

有害鳥獣被害

その対策は



安²認証を受けているいちご農家(星谷)

問

最近、地球温暖化とともに有害鳥獣が異常に繁殖し農作物が荒らされている。その対策として電気さくなどがあるが、その状況と捕獲数は。また、新年度の対策予算は。

答 産業建設課長

平成二十年度は町単で電気さくが一件で六百メートル。ネットは十二件で千三

答 産業建設課長

県道改良として中角工区は、今月末でないと言算の配分が決まらない。

今後、狭あい部から改良を進めて行きたい。

答 副町長

県道徳島上那賀線は、生活道として欠かすことの出来ない道路である。

沖野工区、長柱工区、柳原工区の二車線化が図られたが、今後とも未改良区間が一日も早く改良出来るよう努力をして行きたい。

問 二車線化は 県道徳島上那賀線

消防車や救急車の対



折野副町長

国民健康保険

十八歳未満の子どもは無保険にならないように

きめ細かい対応をする（町長）

森本 守議員



答 町長

健康を守るという観点から、十八歳未満の子どもについては滞納者の実情を十分に聞き、機動的な処理をしないようきめ細かい対応をして行く。

雇用対策について

問

短期被保険者証の発行数が近隣町村に比べて多いと思われるが、滞納者に対しては人道的に對話して、短期被保険者証や資格証明書の発行が最小限になるよう努力すべきである。

また、十八歳未満の子どもは無保険にならないよう約束してもらいたい。

答 町長

町内にある工場にはシルバー人材センターからも派遣されているが、派遣中止の心配はないのか。

また、都会には田舎暮らしに夢を持っている人が増えている。このような時をチャンスととらえ、やる気のある人に勝浦の農業を再生してもらってはどうか。

答 産業建設課長

現在のところ町内の工場では不況による人員削減はないが、四半期の業績によつては今後予想される。

答 町長

田舎暮らしを希望する人には、ふれあいの里さかもとにある移住交流センターを活用してもらいたい。



中田町長



新型インフルエンザに有効なマスクなど

新型インフルエンザ対策は

問

新型インフルエンザについては絶えず新しい情報を町民に伝え、備えを万全にすべきと思うが、今後の対策は。

答 町長

広報などで周知し、初期の行動にも十分に配慮して正しい情報で適切な対応が出来るようにしたい。

町道の安全対策は

問

与川内地区の大平谷は、埋め立て後に花木を植えると地元住民に説明しているようだが、いつ出来るのか。

最近、各地区で畑総工事や広域農道工事が原因とみられる傷みで、自転車などの通行に支障をきたしているが。

答 産業建設課長

また、沼江地区には町道が水没する箇所があるが、これらにどう対処するのか。

大平谷の花木の植え付けについては、いつになるか聞いていない。

町道の整備は区長からの要望により優先順位を決めている。

沼江地区の町道水没に関しては、通称「犬返り」の川床ならしを実施した。

その他の質問

○正木ダム関連
二十八項目について

沼江バイパス

用地交渉の進み具合は

全地権者から協力の同意をもらっている（産業建設課長）

森 健 議員



つた人から契約に回り、二月中に完了したい。

耕作放棄地 解消と再生対策は

補助事業などを利用
（産業建設課長）

問

水田や果樹園の耕作放棄地が目立って来ている。主たる原因と面積は。

また、再生が可能と見込まれる面積と方策は。

答 産業建設課長

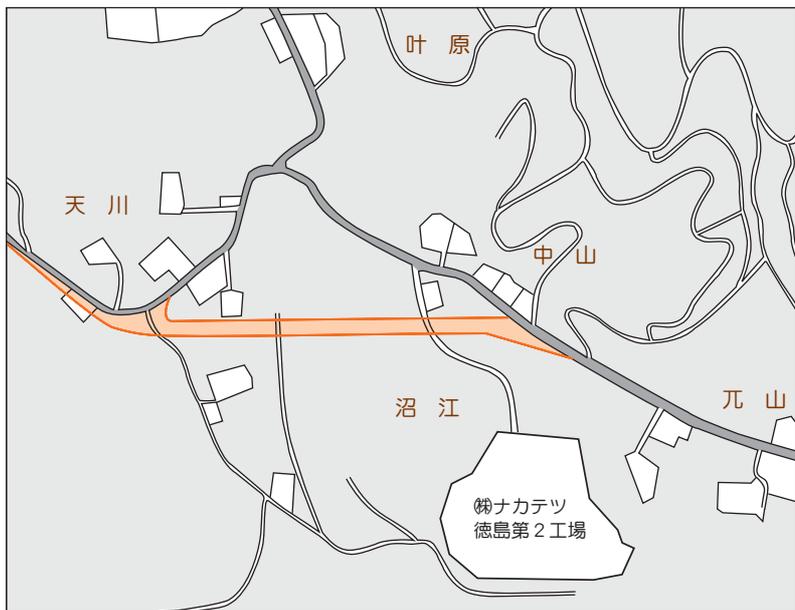
本年の調査では約十三haの放棄地がある。発生原因としては高齢化による労働力不足、低生産性、土地条

件の悪さや農地の受け手がいないなどの理由がある。町では耕作放棄地にならないよう中山間直接支払制度で取り組んでいるが、この施策が放棄解消になるかどうか不安定な要素を含んでいる。本町の場合、耕作の意志は無いものの、農地を他人に貸すのも不安であるといったことも要因の一つである。放棄地解消の方

策は難しいが、各種農業講座や産直市、町の農業振興補助事業、機械等を利用して取り組んで欲しい。



倉坪産業建設課長



沼江バイパス計画路線

バックホー

購入に補助を

問

高齢化した農業者の支援対策や耕作放棄地再生のために、小規模生産組合の小型バックホー購入に町が補助出来ないか。また、県の補助事業対象として要望しては。

答 産業建設課長

現在ある町の機械を積極的に活用してもらいたい。また、今年度になって県に要望に行ったが、建設機械であり農業機械としては補助出来ないとのことである。



「道の駅」

勝浦の発展に どのようなようにつなげるのか

交流拠点として相乗効果

(副町長)

松田貴志 議員



大きく寄与し、産業・文化の交流拠点として相乗効果が図られる。

答 町長

既存の施設を一体感を持って整備し、農業振興や文化の交流拠点として行きたい。

情報化社会に向けて

利用促進策は

住民ニーズに対応

(総務税務課長)

問 「道の駅」を整備することによって周辺地域や勝浦町全体の発展、活性化にどのようなようにつなげるのか。

答 副町長

文化は産業が成熟したところに花開く。「道の駅」は一つの起爆剤であり、加工施設などを併設することで農商工の連携、発展に大

問

「楽ビジョン」の利用状況と、利用促進に向けた機器のバージョンアップや内容充実への取り組みは。

また、ICTを最大限活

用するために「パソコン教室」を開催しては。

答 総務税務課長

十九年度は月平均二千七百二十八件、今年度十一月までの月平均は千四百六件で減少傾向にある。機器の更新や環境改善は行っているが、今後はホームページの充実や住民のニーズを取

り入れた番組作りが必要と考える。

また、パソコン教室の必要性は感じるが、今のところ開催は考えていない。



伊丹総務税務課長

答 町長

ICTを最大限活用するためにパソコン教室を含め、何が必要かを十分に検討して行きたい。

残る任期

何を優先的に 取り組むのか

小・中学校の
耐震化を(町長)

問

勝浦町の明るい未来のために、残る任期で何を優先的に取り組むのか。

答 町長

小・中学校の耐震化を優先的に実施し、道の駅を拠点とした産業文化の交流、周辺地域の活性化やみかんのブランド化に取り組む。
また、総合型地域スポーツクラブによるスポーツの振興や、全地区に整備された自主防災組織の連絡協議会を設置し、更なる防災意識の高揚を図りたい。



初めて開催されたファミリースポーツフェスティバル

国保税

減免制度の基準を明確に

個別に実情を把握し対応（町長）

井出美智子議員



問

百年に一度といわれる大不況のもとで、町民の生活が困窮している。低所得者には国保税が大きな負担となり、病気にかけると医療費の一部負担金の支払いが困難となってしまう。払いたくても払えない現実があるのではないか。払える国保税や一部負担金にするためにも、申請減

免の基準を数字的に明確にするべきではないか。

答 町長

具体的な数値基準を設けなくても、申請者の事情をよく確認することで、現行制度で十分対応出来る。

**国立病院等の医療費の支払い延期可能
周知してはどうか**

問

がんなどの高度治療で闘病を続け、大学病院等にかかるころには治療費の負担に耐えきれず、生活が行き詰まり治療をあきらめてしまう事例が出て来ている。「国立病院等の医療費の支払い延期可能」

などの制度を周知しては。町民に周知出来るようにしたい。

答 町長

町民に周知出来るようにしたい。

**不況に対応した
就学援助制度の
あり方を**

問

不況にあえぐ社会情勢の中で、子供たちを取り巻く環境も変わってきている。実情にあった対応で就学援助制度を運用し、学びの場を保障するべきだ。

答 教育委員会事務局長

年度途中であっても必要な場合は追加認定している。



谷添教育委員会事務局長

**勝浦まるごと
ブランド化で
活性化を**

問

みかんだけではなく、豊かな自然と産物に恵まれた勝浦町をまるごとブランド化して、すべての産物を有効活用するべきでは。

また、生産から加工、販売への取り組みを強め、今までのあり方から一歩踏み込んで行くべきだ。

答 産業建設課長

みかんのストレートジュースの生産など、今後は一次産品に付加価値をつける取り組みが重要である。既存の加工施設の利用も減少傾向にあり、有効利用出来るように施設の見直しを含め検討して行きたい。

答 町長

先進事例を研究し、ホームページを刷新、キャッチフレーズをつくるなど、まるとブランド化について検討したい。



ストレートジュースで付加価値を

新年度予算

各課の重点施策は

沼江バイパスと耐震工事（町長）

西浜勝己議員



住民に直結したものを最優先し、厳しいが勝浦町の未来に向かって進むためには、「課題の選択・集中」で活力のある住みよいまちづくりをめざしたい。

答 総務税務課長

新しい事業があるので、二十年度以上の財源確保が必要であり、基金の取り崩しも含めて検討したい。

問 新年度予算の特徴と総額は。
また、各課の重点施策と予算要求の作業日程は。

答 町長 大きな事業としては公立

学校の耐震補強、道の駅の積極的な取り組み、沼江バイパス第二期工事の着手などがあるが、予算総額について現時点では明言出来ない。

をもとにスケジュールの調整をしたい。

答 産業建設課長

沼江バイパスの早期着工と、道の駅の予算要求である。

答 病院事務局長

医師、看護師の確保と過重労働の改善を図って行きたい。

答 住民課長

ホームペー

ジの更新、廃棄物資源化交付事業実行計画などである。



豊岡住民課長

答 福祉課長

所民営

保育
化のため二十一年度に引き継ぎ保育を実施し、子供たち混乱が起きないようにスムーズに移管出来るようにしたい。



岩佐福祉課長

どうなる新過疎法

国の動きを注視（副町長）

問

新過疎法制定に向けて、町および県はどのような取り組みをしているのか。また、国の動きは。

答 副町長

知事と関係市町村で

「徳島県過疎対策研究会」を立ち上げ、昨年の八月に「総決起大会」が開催された。国においては、昨年の九月に「過疎問題懇談会」を立ち上げ五回の会議を開催し、二十一年一月以降に結果を取りまとめることになっているので注視したい。



新過疎法制定に向けた県の決起大会

水道使用料金滞納者の対応は

督促状を発送（産業建設課長）

問

簡易水道組合長会議の内容は。
また、使用料金滞納者の扱いはどうなったのか。

答 産業建設課長

会議では各施設の老朽化に対する要望が多く出された。
使用料金滞納者に対しては、督促状を発送することに決定した。



今回も「議会だより・町政を問う」で報告した一般質問で、前向きな答弁があっても出来ない事項を追跡する。

正木ダム 建設時の確約は

長年〜
会議開かれず

十九年九月議会

問 正木ダム建設当時
会長と二十八項目に確約事
項が交わされていたが、そ
の後の行動は。

答 行政間の約束ごと
であり、早急に確認
の場を持ちたい。

追跡

この確約は
勝浦川流域の

整備を促進するために交わ
されたもので、まだ十項目
が未整備である。会議が開
かれたのは平成七年で以後
十一年間開かれていない。
県に忘れ去られないよう
に、協議の場を持ち確認す
べきである。

ブックスタート 事業を

進展せず
今後も追求

十九年九月議会

問

乳幼児期に絵本を
読み聞かせることは、
子供の心と言葉をはぐくみ
親子のきずなが深まる。絵
本を無料配布しては。

答

有効性も含め調査
し検討したい。



利用者が少ないIP電話

追跡

このことは
徳島市など周
辺町村でも取り組んでいる。
今後も要求していきたい。

IP電話の 利用促進を

利用者は少ない

十九年十二月議会

問

固定電話からIP
電話に替えると年間

三万円くらい安くなる。
もっと利用しやすい性能
の改善や、サービス向上を
図るべきではないか。

答

固定電話と同じ性
能やサービスが可能
なので、問題点を解消して
行く。

追跡

まだ町民だ
れもが使いや
すい状態でないため、利用
者は少ない。



心をはぐくむ絵本の配布を

はばだけ！ ちびっ子アスリート

日本空手道「三空会勝浦道場」



2009年！新春を飾るのは、日本空手道「三空会勝浦道場」のみなさんです。
 鴻本道場長の指導のもと、ちびっ子アスリート11名、中学生と一般を含め総勢22名が、冷え切った夜の町民体育館で「気合一声」。基本練習から組み手へと熱気に包まれていました。
 この道場は、「めざせ黒帯」を合い言葉に練習を続け、昨年の6月に開催された「第13回乙姫杯争奪女子空手道選手権大会」において団体総合優勝に輝き、今後の活躍が期待されます。



●道場長のコメント●



それぞれの目標に向かって、亡き師範の意志を受け継ぎ「努力の精神」を養ってほしい。

【道場長】 鴻本 治
 【県公認指導員】
 瀧花秀樹・瀧花直行・西田 誠

練習日時

◎毎週 火・木曜日
 ◎午後 6時30分から 9時まで
 ◎勝浦町民体育館
 【連絡先】
 西田 誠 指導員宅
 ☎0885-42-2261

～メンバー紹介～

6年生	東條ひなの	4年生	石木 真由	幼 児	小関 摩耶
4年生	西田さつき	2年生	新開 未玖	"	西田 望
"	阿部由佳梨	"	出葉文加里	"	石木 愛美
"	新開 優花	幼 児	阿部 圭織		



地元を力走する山平選手

ウィンタースポーツが花盛りの季節ですが、私はラグビー観戦が大好きである。
 ラグビーでは対戦相手と大きな実力差があっても決して力を抜かないし、トライを奪っても派手なパフォーマンスはしない。それは常に相手に対して敬意を払っているからである。
 ラグビーの精神を現す言葉に「一人はみんなのために、みんなは一人のために」や試合が終われば「ノーサイド」敵味方なし」などが有名だが、今の世の中、自分勝手な事件を見るたびに改めて他人を思いやる気持ちが必要だと思つ。
 駅伝のタスキつなぎにもみんなを思う気持ちが伝わってくる。
 (公一)

編集後記

